

「家がいいね」 第180号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2019. 5. 7

今は大騒ぎするほどの時か

群衆が一斉にある方向に動く、その長い連休が終わり、日常生活がようやく戻ってきます。時代が根こそぎ変わるのとは別の時と思います。平成でも2011年は天災人災に揺れ動きました。昭和でも1945年ようやく狂気から目覚めたのですが、1941年開戦、1931年に満州侵略の開始、1936年2月26日軍国主義の強化と歴史を遡れます。人々の生活が押し潰され、小騒ぎすらできませんでした。

平成の開始は87歳の男性の1年半に及ぶ膀胱癌の闘病の末でした。最期は3ヶ月余も輸血を繰り返した、延命治療の後に記憶します。妻は12年経ち生涯を終えられましたが97歳、認知症での生活だったと思います。



篠山紀信 写真集「あとかた」より

85歳のその方も多くの病気を抱えられ、後進に道を譲ると強く望まれたのは自然の理でしょう。人であれば生前葬を営む気持ちです。今は静かに労う時間こそ肝要です。人権より神権を求める勢力は、崩御II改元と頑なでした。「改元で新しい時代になる」との宣伝は、国権を人権の上に置く先棒担ぎに思えます。この先も国家行事で目隠しが続く、要注意の時代です。

自然の中で生きる

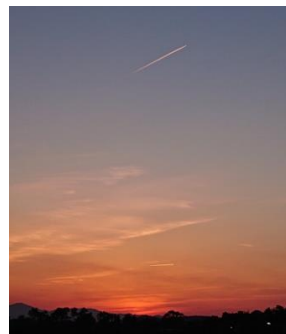
高麗広の定点観測です。通行規制が厳しい前にと、連休が始まった27日の土曜午後に行き、撮影を。五十鈴川の山道は、前夜大雨の後の木切れで一杯。緑の草が伸びても田植えは先の様子。私も強風に吹き飛ばされそうな舞台の田です。連休前に平地の田植えは既に終了です。



カルテからの つぶやき 10

高齢の方の「最期が何時どのように来るか」は予測がつかないものだと感じます。「身体の中に在る余力を予測する」のが困難、と同義語です。

10連休最終日、超高齢の方が急逝されました。この1カ月、繰り返し発熱をしても、食事や服薬は本人も望んで何とかできていました。救急病院に行き日常を中断すれば、誤嚥性肺炎↓抗生剤↓絶食点滴の延命治療は可能かもしれません。だが彼も息子も生活が大事と日々を過ごしました。連休明け再会の望みがあつたようです。時の順序を整えられず私に棘が残る別れでした。



身近に在宅を知る市民塾のお知らせ

伊勢は必要な情報も開示しない風土です。自らの意思決定のためにも、動き始める時期です。

開講式 5月11日14時 パルティいせ2階

「終わりよければ」いせの会主催
この後も半年お互いに何ができるかを考えあう塾の開催です。塾費は千円、30名を予定。



内藤いづみ先生の講演会

「死ぬ時に後悔しない生き方」

5月26日(日) 10時〜

シティプラザ2階 無料

南勢地域緩和ケアネットワークと共催

この先の臨時休診のお願い

5月25日(土)、6月22日(土)の外来
よろしく、ご了承をお願いします。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tep-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可